

組織現勢 (2月1日現在)

組合員数 20,325人  
出資口数 143,569口  
12・1月の新規加入 104人  
12・1月の増資口数 772口

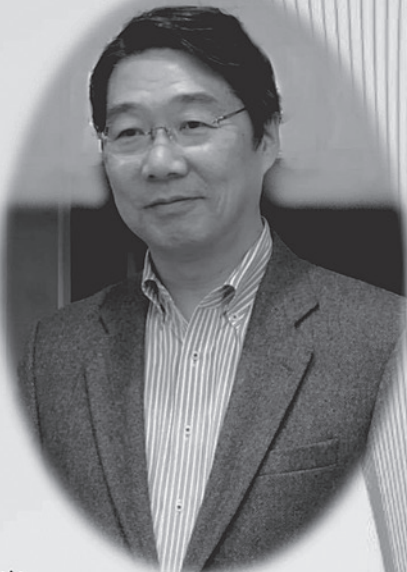
No. 423 再生紙を使用しています。



発行所  
城南保健生活協同組合  
本部事務局 大田区大森東4-6-15-101  
TEL (3762) 0266  
振込銀行 さわやか信用金庫大森支店  
口座(普) 0469459  
発行 「城南の保健」編集委員会  
年6回発行・定価1部 30円

# 憲法こそ たからもの！ Part.3

いま、聞こう、語ろう、伝えよう



対談

## 香山リカさん × 前川喜平さん

精神科医  
立教大学現代心理学部映像身体学科教授

現代教育行政研究会代表  
元文部科学事務次官

2020年5月29日(金) 18:30~20:30 (18:00 開場)

### 大田区民プラザ 大ホール

東急多摩川線「下丸子駅」下車すぐ

入場券 500円

定員 500名 全席自由※

※ 前売り券の方が優先となります。満席になった場合、当日券販売はありません。チケットご購入のうえお越しいただけますと幸いです。

■ 車いす席(定員2名): 事前に連絡願います ■ 保育室あります: 要事前申込

主催: 城南保健生活協同組合 東京南部生活協同組合 東京民主医療機関連合会西南ブロック  
東京南部法律事務所 五反田法律事務所

チケット販売・お問い合わせ先: 東京南部法律事務所 TEL03-3736-1141 Email: kenpokosotakara@gmail.com  
五反田法律事務所 TEL03-3447-1361

#### 香山リカさんプロフィール

精神科医・立教大学現代心理学部映像身体学科教授。1960年北海道生まれ。東京医科大卒。豊富な臨床経験を生かして、現代人の心の問題を中心にさまざまなメディアで発言を続けている。専門は精神病理学。連載誌:北海道新聞(ふわっとライブ)、毎日新聞(ココロの万華鏡)、読売新聞(小町拝見)、創(「このころの時代」解体新書)等多数。

#### 前川喜平さんプロフィール

文部科学省官房総括審議官、官房長、初等中等教育長、文部科学審議官(文教担当)、文部科学事務次官を歴任。2017年文部科学事務次官退任後は、長く教育行政に携わった経験をもとに、これからの日本の教育のあり方を見据えて全国各地で講演をしながら、現在、福島市と神奈川県厚木市で自主夜間中学のスタッフを務める。現代教育行政研究会代表。著書に『面従腹背』(毎日新聞出版)、『前川喜平「官」を語る』(宝島社)など。

今年もやります！  
憲法こそ たからもの Part.3

城南保健生協は「平和でなければ健康はない」の視点から、さまざまな団体と連携して憲法企画を取り組んできました。今まで、伊藤真弁護士、青井未帆教授、松元ヒロさんなどをお招きし、憲法について学んできました。今回は香山リカさんと前川喜平さんの対談で憲法を学びます。

テーマは「いま、聞こう、語ろう、伝えよう」  
皆さまのお越しをお待ちしています。

\* チケットをご希望の方は、城南保健生協(03-3762-0266)まで(当日満席の場合当日券販売はありません)。

#### 2020年春の健康バスハイク 5月17日(日)

#### “トーベ・ヤンソンあけぼの 子どもの森公園”に決まりました

「ムーミン」でお馴染みの童話作家トーベヤンソンとの手紙のやり取りから生まれた公園にご一緒に行きませんか? 詳細は折込チラシをご覧ください。



#### 介護の相談なら、なんでも城南保健生協へ

- 城南保健生協は「すずらん」(訪問介護事業所)、「虹の家」(認知症対応グループホーム)を運営しています。
  - これから、訪問介護が必要など相談にのれますので、まずはご連絡ください。
- 電話03-3762-0266まで。

#### 腹八分

「募っているが、募集していない」アベ政治の例えようもない劣化と、政権の終わりのほしめりを予感させるこの答弁は、こわかに世間を駆け巡り、そのまま、あるいは形を変えて流行語になってしまった。国会で、記者会見で質問の主旨とはかけ離れた答弁。その答弁も背後に控える官僚に任せたり、耳打ちされたものを、5回も6回も繰り返して、くぐり抜けをはかる。「合意はしたけれど、契約はしていない」「こんな国籍を疑いたくなるような場面も放映された▼なぜこんな風な能力も持たない勢力が、日本の中枢に居座っているのか。その原因を国民も識者もマスコミに求める声は多い。巨大な政府権力を背景にしているNHK。財界の巨大な圧力の下に運営されている民放。「桜を見る会」「モリカケ問題」そして口汚い国会の場でのヤジ、放言。放送局・新聞社が権力の厳しい監視の中にあって真実を伝えきれなくなっている中で、現場にはそれに抵抗を試みる記者は、決して皆無ではない▼自らに実名をあげて、国・上司を告発した若い女性記者は権力の厚い壁を打ち破るものであった。最近になって国際的にも注目されるようになった「ジエンダー」でも勇気ある告白が続いている。それが国民をかつてのように縛りつけてきた権力を、一歩ずつでも追い詰めている▼最後にもう一つ。アベ疑惑を国会で追及した参議院議員の質問に、アベ首相は「公開対象は書いてあるが、公開するとは書いていない」と答弁。首相の1日も早い退陣を待つのみ。